第 2015-45 号

恵みと真理のニュース

2015 年 11 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証] 神様は中風病を癒してくださいました

私は儒教を信じる家庭で生まれ偶像崇拝をする姿を見ながら育ちました。青年になるまでイエスキリストとキリスト教も知らなかったです。そうするうちに妻に出会ってから初めて福音について知るようになり、結婚のため挨拶しに妻の家に行ったら義父さんから“イエス様を信じると結婚を承諾する。”とおしゃって結婚をするだめ“はい、これから信じます。”と答えました。しかし、結婚をした後、熱心に礼拝中心の生活をする妻と違って教会で名前だけ書いて不信者のように生活しました。主日になると妻は強く教会に行くのを勧めたが私は様々ないい訳をして世の趣味と仕事で熱中しました。それで、他の人々より遅く執事の任命も受けました。歳月が流れて娘二人と息子一人を持つ父親になりました。神様は選ばれた者をほったらかさなかったです。ある日、聖霊様が私の心に入ってくださり働いてくださいました。真実に信仰告白をするようになり礼拝を参席することに御言葉の恵みを受けました。驚くことは麻薬のようなお酒とタバコをすぐやめることが出来ました。今までは教役者達が奉仕して祝福を得ると勧める時にはまいど断りましたが、聖霊様が私の心に入って感動を与えて下さり、自ら奉仕部に行って奉仕するようになり時間が経って区域長の職分も受けました。

熱心に礼拝し奉仕したら娘の結婚の祈りに答えて下さいました。結婚する時期が過ぎた娘が信仰が良く心立てがよい青年に出会いました。信仰と愛と希望の家庭を作るように神様の摂理と助けを願ったら神様は答えて下さいました。そして私に 執事の按手を受ける祝福まで与えてくださいました。感謝してもっと信仰と従順するように頑張りました。

そうするうちに2012年8月30日いつもと同じように区域礼拝を捧げて寝ました。次の朝、職場に出勤するため起きたら体がおかしかったです。脳卒中で倒れました。救急車で運ばれ集中治療室で入院しました。後で知った話ですが、私が倒れた日が金曜日だったので金曜礼拝に参席した多くの聖徒が私のため切に祈ってくださいました。神様は私に能力ある親切な医師を予備してくださいました。私が集中診療室にいる間毎日のように面会の時間になると教会で多くの方々が来られて祈って慰めてくださいました。多くの方々が来られて医師もどんな仕事をしますかと聞くほどでした。聖徒達の祈りと神様の恵みで早く回復して8日ぶりに一般病室に移動しました。神様は私が落胆しないようになさいました。普通教会で握手だけするよく知らない執事まで病室に来られて神様の恵みで奇跡的に病気が治った証もしてくださって大きい励ましと勇気を得ました。しかし、良くなりリハビリ病院に移してリハビリを受けるようになり、むしろどのくらい回復するかと日常生活は出来るのかと疑念が生じて落胆になって祈りが出来ませんでした。どころがある日には未来にたいする恐れで落胆してちょっと寝ると奇異な神様の声が聞こえました。“これも我慢できないのか恐れるな。”とおっしゃる声がはっきり聞こえて起きました。その後、心から落胆はなくなり神様の平安でいっぱいになりました。主が働くと治らない病気はないと強く信じ祈りながら積極的に治療を受けました。治療を受ける時間主が私と共におられる時間だと思ったら治療を受けるのが大変な事ではなくむしろ楽しい時間でした。リハビリの医療人たちを伝道して他の患者達がうらやましがって完治に対する希望を持って楽しく治療を受けました。治療してくださる神様の栄光のため健康な体を作ろうと考えて熱心にリハビリを受けました。そして、早く健康になり退院して、今は職場で復職して正常的に重装備運転の仕事をしています。私の重い病気を治療してくださった神様の父に感謝します。ハレルヤ！

当会長牧師が私の聖殿で来られ病弱な私のため按手祈りをしてくださいました。その次に来られた時は健康な姿で牧師に会いました。祝福盛会が終わって牧師を直接に会ったとき“牧師は祈ってくださって神様の恵みで私が中風病が癒されました。牧師感謝します。”と挨拶したらまた、私のため感謝と祝福の祈りをしてくださいました。私のため祈ってくださった教役者たちと聖徒達にもこの証を通して感謝の挨拶をします。神様はこの神癒の恵みだけでなく家庭で豊かな恵みを与えてくださいました。長女が孫を産んで私がお祖父さんになりました。二番目の娘には難しい就職の扉を開いてください希望した職場に入るように導いてくださり、聖歌隊で奉仕するようにしてくださいました。息子も軍隊を終えて無事に就職して恵みを受けて教会学校の児童部で奉仕するようにしてくださいました。妻もまた、中高等部で奉仕しています。そして、家も祝福してくださり結婚した娘と近くに住んで恵みと真理教会で信仰生活しています。

神様の摂理のなかでシフンで引越しして今キンポ聖殿で男性奉仕連合会で教会と聖徒のため仕えています。私の病気を話して会員達の配慮で案内奉仕と簡単な教会の掃除などしながら健康を気を使っています。病弱で落胆している時私に“それも我慢できないのか！起きなさい。”と主の声が今も生々しいです。この世を生きながらどんな苦難があっても主が下さった約束を考え熱心に福音を伝えて、神霊と真の心で神様に礼拝し、主が治したことに感謝し主のだめ献身と奉仕を捧げます。神様に全ての栄光を捧げます。

堅固な思いを、あなたは平和に守られる／あなたに信頼するゆえに、平和に。（イザヤ書　26：3）　信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。　だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。（ヤコブ書5：15,16）アーメン

[信仰コラム] ラザロのことで

″…それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じるように至ったからである。″(ヨハネによる福音書 12:9~11)

人がどんな決定を下したり、行動をするようになるにはその原因になる何があるものです。 これを動機または契機と申します。 動機とは人間の生存と生活に決定的な影響を及ぼし、重大な結果をもたらす要素です。 動機に対する聖書的な理解と我々が取る態度について説明します。

第一に、私たちが生きてみてどのような動機を持つようになるかというのが我々の暮らしぶりに及ぼす影響がとても大きいです。

動機は内的動機と外的動機に分けることができるが、内的動機は自発的に起きている動機で、外的な動機は外部の刺激によって起こる動機です。 重要なのは、我々がどのような動機をどれだけ持つようになるかということです。 個人や社会がどのような動機たちを持つようになるかというのが幸せと不幸、興亡盛衰に決定的な影響を及ぼすことにします。

第二に、人が彼が直面する対象や状況をどのような動機にしかということが結果において決定的に重要です。同じ状況をめぐってもそれぞれ違う動機を誘発する場合を見ることができます。 イスラエルの民が紅海に陣を張っていたときにエジプトの軍隊が追撃してきました。 この状況がイスラエルの民は神様を恨んで不信する動機となったが、モーセには神様をもっと期待して意志するきっかけとなりました。 彼が直面する状況や対象を試験する動機としている人は信頼が少ない者であり、心霊が虚弱な信者です。 心霊が強健な信者は試験に入ることがありません。 他の人が試験取るようになった原因について敬虔な信者はむしろ鏡と警戒に知って教訓を得た動機にします。 本文に見ると、非常に対照的な二つの部類の人を見るようになります。 多くの人が来てまた復活したラザロを見て、イエス様を信じるようになった反面、サドカイ人、祭司長たちはそれが動機になってイエスやラザロを殺そうと決心し、模擬しました。 どのような状況と対象でもそれを神様を頼って敬虔に生きていく動機ができるようにするという決心を持てば、信仰的な発展と向上を図る動機がされます。

第三に、他人によい動機を提供する者がなることを決心して行わなければなりません。。

他の人に不信仰の動機を提供して試験に入るようにする原因提供者になることは極めて不幸なことです。カナンを偵察した偵察師の中で十人はイスラエル民衆が試験に入って神様を恨んで背反するようにする動機を誘発させる原因提供者でした。 一方、ヨシュアとカレブは、国民に信頼と希望の動機を誘発させようと努めました。 私たちは他人の幸福と成功のために動機を付与することをしなければなりません。 落胆の中にいる人にどうすれば望みを持つように動機付けをするのか、注意ことに力を入れない人にどうすれば周りに献身奉仕することを動機付与をするか考えて努力しなければなりません。 何よりも不信者にどうすれば、イエスキリストを信じるように動機付けをするか考えて努力しなければなりません。

第四に、何がきっかけとなって生きていくのかすることは、私たちの人生にとって最大の課題です。

ダビデがゴリアテと戦った動機がエホバを畏敬することから始まったということに、我々が注目しなければなりません。 神様を畏敬の念を抱いて愛する動機から端を発しない、自分の名声や肉体的利益が動機になって行うことは結局、無意味して無益なことです。

概して人々は、肉体的な問題、経済的な問題、心的な問題解決を受けるための同期で、イエス様に出ます。歓迎すべきことです。 しかし、イエス・キリストに会った後には聖三位一体[父ちちと子こと聖霊の三位]の神様を畏敬し神様を愛する動機で、神様の栄光に向けて主を嬉しい呼び立てしという動機で暮らしている聖徒にならなければなりません。 このような人よりもっと強くて賢い人がなく、このような生活よりもっととってめでたく美しい生活はありません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

怒りを治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は “怒りを治める秘訣”に関して調べます。 今日の聖書の本文に記録されるのを “怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。”と言いました。 羊飼い少年タビテがブルレセッの将軍ゴリアテを一撃に殺すその勇猛と信仰は彼が父の羊を飼う時に牧場を侵入した獅子と熊を打ち殺した経験から湧き出ました。 外の世界のゴリアテを対面する前に先ず内面世界の獅子と熊を片付けなければなりません。 自分の心を治めて守るようになればゴリアテのような途方もない問題を充分に対応する力と知恵を発揮することができるようになります。 私たちの心に損傷を被らせて病ませるものなどの中には“怒り”があります。 これから怒りの種類と怒りを治める方法に対してよく見ます。

第一、神様の怒りがあります。

聖書には怒る神様に対して記録しておきました。 詩編 7 編に “神は義なるさばきびと、日ごとに憤りを起される神である。もし人が悔い改めないならば、神はそのつるぎをとぎ、その弓を張って構え、”(詩編 7:11,12)と記録されました。 神様は感情を抑制することができなくて怒る事がないです。 神様の怒りは絶対的に聖なるまた純潔です。 神様の怒りは罪悪に対したのである。

聖書にはイエスキリストが怒った事実も多くの所に記録しておきました。 イエス様は安息日に病気を治してくださることを邪魔するバリサイ人々に怒りました。 律法を細分化して厳格な規定を付け加えて人々を律法の奴隷に作る律法学者にも怒りました。 弟子が神様に対した信仰が不足な時と世俗的な考え方を持つ時に怒って叱りました。 しかしどんな場合にも荒っぽい血気から出た怒りではなく悲しくて痛くここは心情から出たのです。 その一つの例が聖殿の清潔事件です。 (ヨハネによる福音書 2:13-16)

イエスキリストが 過越の祭を守ろうとエルサレムへ来て聖殿に入ってから聖殿の中で牛と羊と鳩を売る人々とお金替える人々の座ったことを見ました。 イエスキリストがこれらを見て怒って腰縄でむちを作って羊や牛を聖殿で追い出してお金替える人々のお金をこぼして机を伏せました。 そして鳩を売る人々におっしゃるのを “これをここで持って行きなさい私の父の家を商売する家に作らない。” としました

また一つ例がコラジンとベツサイダの村に対してとがめた事件です。 イエスキリストが権能を一番多く施した村が悔い改めないので咎めました “「わざわいだ、コラジンよ。わざわいだ、ベツサイダよ。おまえたちのうちでなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって、悔い改めたであろう。しかし、おまえたちに言っておく。さばきの日には、ツロとシドンの方がおまえたちよりも、耐えやすいであろう。”(マタイによる福音書 11:21, 22)と言いました。

この世の中で一番貴重なものを与えたが人々がこれを拒むして見下すことを見ながら心の痛がりながら怒る音声です。 聖三位の神様の怒りは人間の怒りとは区別された聖なる怒りです。

第二、健全な怒りと不健全な怒りがあります。

聖書には人が怒ることを無条件禁止させていないです。 怒るのがすべて悪いとか禁止されたことではなくて信仰による怒り、健全な怒りは必要です。 しかしどんな性格の怒りでもその怒りをよく治めなければなりません。 罪悪と不意と不正に対する怒りは健全な怒りです。 しかしこのような怒りをよく治めて肯定的なエネルギーで転換させなければなりません。 怒りは肯定的な力になることができます。 “人間と自動車は内部の爆発によって進むのである。” という言葉があります。 罪悪と不意と不正に対する怒りは健全な怒りです。 このような怒りが肯定的な方向に作用するように心を治めなければなりません。 このために皆さんは聖霊様の助けを求めることを忘れてはならない。

第三、敬虔な怒りと不敬虔した怒りがあります。

神様の光栄をふさがる怒りは不敬虔した怒りです。 神様のみ旨に適当な怒りは敬虔な怒りです。 敬虔な怒りと不敬虔した怒りを比べて分からせる事件がイスラエルの偉大な指導者モセの生涯にあった事件の記録の中にあります。 敬虔な怒りがどんなことなのかを見せてくれる事件はこのようです。 コラとダタンとアビラムが民のリーダー 250 人を先導してモセとアロンを対抗しました。 モセはゴラとその輩らに彼らが不満を抱いて不平を言うのが正当ではないということを指摘しました。 彼らの行為は神様の権威と決定に対する対抗という事実を明らかに言ってくれました。

そしてモセがダタンとアビラムを呼びに人を送ったら彼らが拒んで来なかったです。 彼らの態度を見てモセが甚だしく怒りました。 神様は反逆者を直接処罰することでモセの怒りが正当であるということを立証させました。 モセが怒ったことは自分の名誉と権威が損われたからではなかったです。 彼らが神様の権威と決定に対抗することであったからでした。 だからモセの怒りは敬虔な怒りでした。

一方不敬虔した怒りがどんなことなのかを見せてくれる事件はこのようです。 広野を行進するイスラエル民が新広野に到着したが水がないので彼らが集まってモセとアロンを誹謗しました。 その光景を見た神様が忍耐してあわれみを施して民に聞くことを決心しました。 モセとアロンに次のように指示しました。 “「あなたは、つえをとり、あなたの兄弟アロンと共に会衆を集め、その目の前で岩に命じて水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませなさい」”(民 ２０:8). ところでモセはイスラエル民の姿を見て怒ったから

“モーセはアロンと共に会衆を岩の前に集めて彼らに言った、「そむく人たちよ、聞きなさい。われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならないのであろうか」。モーセは手をあげ、つえで岩を二度打つと、水がたくさんわき出たので、会衆とその家畜はともに飲んだ。” 盤石に言い付けないで杖で盤石を二度打ちました。 この事件は不敬虔した怒りとはどんなことなのかを明らかに見せてくれています。

神様の光栄とみ旨はあずかり知る所じゃなくて自分の気持ちどおり怒るのが不敬虔した怒りです。 不敬虔した怒りの原因が二つです。 驕慢と利己心の欲心です。 人が驕慢になるほどよく怒りが立つようになります。 利己心と欲心を持った人は怒りをよく出します。

第四、不健全で不敬虔した怒りがもたらす悪い影響と結果に対してよく見ます。

怒りは怒りを起こす相対より自分に先ず打撃を与えます。 怒りは健康に打撃を与えます。 アメリカのエルリマゲイスという学者の実験によれば “一人が一時間の間ずっと怒っていれば 80 人を殺すことができる毒が出る。” といいました。 人が呼吸する時吐き出した隠れるガラス管を通じて液体空気で冷凍させた結果沈殿物が生ずることを見つけたがその沈殿物の色がその人の感情によって違ったと言います。 怒っている時には栗色で、苦痛や悲哀に落ちている時は灰色、そして後悔で悩んでいる時はピンクの沈殿物が生じたのです。 そして怒った時生じた栗色の沈殿物を鼠に注射した結果は何分後に死にました。 それでその沈殿物を詳らかに分析して見たら特定種類の毒素が含まされているのが明かされました。 だから怒るその人の肉体に及ぶ悪い影響はもっと言うこともないです。 怒りは甘ったるい寝ることと食欲まで奪って行ってしまいます。

怒りは私たちの精神に混乱を与えて判断を誤らせます。 第 2 次世界大戦の時のドイツが敗亡した原因の中の一つはヒトラーの怒りです。 ヒトラーはどんなによく怒るのか脾胃を少しだけ逆っても怒ったから彼の部下は事実をまともに報告することができなかったです。 ヒトラーはイギリスとフランスなど自由陣営と手に負えない戦争をしながらも一時的な怒りでよって主力部隊を引き抜いてソ連を侵攻したが、すぐこれが彼の一生で振り返えることができない間違いになってしまいました。

終りに、無益で有害な怒りを治めるために私たちが適用して実践しなければならない要点を何種類もっとよく見ます。 “私は獣ではなくて人だ。” という考えをしてください。 怒りが自分の健康をこわして寿命を縮めさせるということを思ってください。 怒るのを遅くしてください。 “愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。”(ヤコブの手紙,1:19) しました。 讃尿を呼んで怒りを心で押し出してしまってください。 聖霊様の助けを求めてください。 御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである (ローマ人への手紙, 8:26)

“怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。”(箴言, 16:32). 皆さんはこのお言葉の恩寵と能力を豊富に体験するように願いします。